

「人口・活力対策指針(仮称)」に関するパブリックコメントでお寄せいただいた意見と対応方針

実施期間：平成26年1月21日(火)～2月3日(月)

意見の件数：6件 (fax:1件、メール:2件、県民課・総合事務所等:3件)

	意見の要旨	対応方針
1	<p>○「里山資本主義」の記述があるが、中国地方総合研究センター(広島市)が昨年11月に「中国地域経済白書2013」の説明会を松江市で開催した際に、「里山資本主義の番組で放送された経済効果の数字は当センターが藻谷浩介氏に提供したものだ」との説明があった。</p> <p>○当センターは里山資本主義に詳しいと思うので、県外の識者やシンクタンクにヒアリング等を行うのも効果的と考える。</p>	<p>有識者で構成する「住もう好きです鳥取未来会議」で、「里山資本主義」という既存の言葉ではなく、別の表現を検討すべきという意見があったため、「里山資本主義」の記述はしない予定ですが、「里山資本主義」の考え方は活かしていく予定ですので、中国地方総合研究センターなどにも意見を伺ってみたいと思います。</p>
2	<p>○これまで努力と予算をかけてきた企業誘致は、現代のグローバルゼーションの中では「鳥取三洋」に代表されるように経営が厳しくなるとすぐになくなってしまふ。一時的な雇用創出や税収アップがあったとしてもトータルでどれだけ効果があったか検証が必要。その上で、「里山資本主義」を検討すべき。</p> <p>○「里山資本主義の実践による雇用創出」を目指すのなら、企業立地と同じかそれ以上の予算を投入すべき。</p> <p>○「雇用創出」と言うからには、その対象がきちんと「産業」として、収益活動としてとらえられる内容でなければならない。</p>	<p>有識者で構成する「住もう好きです鳥取未来会議」でも、「里山資本主義」により雇用を創出するのは困難であり、むしろ、中山間地域を主とした、地域資源を活用した地域の持続性と活力を創出する取組みとして考えるべきではないか、との指摘を受けているところです。従いまして、「里山資本主義」は「若者の雇用創出」という観点ではなく、「人口減でも持続的で活力ある地域づくり」という方向性で整理したいと考えています。</p>
3	<p>○指針案は、総花的で、全国の自治体の取組みと大差ない。要は、どれだけ特定の分野に注力して注目を集められるかだ。一つの分野で成功すれば、次の分野に向かえば良い。ぜひ、「一点集中」で向かって欲しい。</p>	<p>総花的とのご指摘は上記の「住もう好きです鳥取未来会議」でもありましたが、人口減少の影響は多岐にわたるため、ある程度総合的に複数分野にわたって取り組まなければならない課題と考えています。</p>
4	<p>○林業の若者への技術継承や生活支援を特別に重視すべき。</p> <p>○木材は農業や水産業と異なり、商品化まで長い年月が必要なうえ、生活必需品とは異なる性格の商品なので、林業には資金的な支援を含めた特別な対応が求められている。</p> <p>○特に、女性の林業従事者育成について研究と実験に重点をおいた計画が必要。なぜなら、女性が作業可能なら、男性はより可能性が広がるため。</p>	<p>若者が林業の担い手として活躍していただくことは、人口増と、地域活力の創出に繋がり、重要と考えています。また、女性の活躍支援も重要な視点ですので、具体策を検討するに当たっては、ご意見を参考にしたいと思います。</p>
5	<p>○次世代産業の創出は急務だが、すぐすぐには業種に関係なく難しいと思う。</p> <p>○鳥取県は自然に恵まれており、第一次産業の強化は絶対なので、農業県として立ち上がるいい時期。</p>	<p>「県外・海外需要を取り込む商圏拡大」により若者の雇用を創出するため、「農林水産業の活力増進」を重要な方向性として位置付けたいと考えます。</p>
6	<p>○「地域内での富の循環」「地産地消」などの記述があるが、一昨年夏に、中国電力㈱エネルギー総合研究所と(公社)中国地方総合研究センターが共著で刊行した「中国地域経済白書2012 一豊かな人口減少社会一」に具体的な事例分析、方策等が掲載されている。</p> <p>○地位再生大賞第四回で准大賞に選ばれた岡山県西粟倉村の第三セクター「西粟倉・森の学校」による「百年の森構想」を調査分析し、提言が示されている。また、白書には2060年までの将来人口が市町村単位で推計されたデータがCD-ROMに収録されている。</p> <p>○白書の執筆者にヒアリングしてはどうか。</p>	<p>「中国地域経済白書2012 一豊かな人口減少社会一」に掲載の事例などを参考としながら、対策を検討します。中国地方総合研究センターなどにも意見を伺ってみたいと考えます。</p>